

Title	アメリカ労働運動史に於けるヒューマニタリアニズム
Sub Title	
Author	園, 乾治
Publisher	慶應義塾理財学会
Publication year	1928
Jtitle	三田学会雑誌 (Keio journal of economics). Vol.22, No.9 (1928. 9) ,p.1159(1)- 1213(55)
JaLC DOI	10.14991/001.19280901-0001
Abstract	
Notes	
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19280901-0001">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00234610-19280901-0001</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

秋空の下に、スマートなスタイル。

品質に、技術に、  
既に定評ある

佐藤の洋服

合・冬服着地豊富に  
御用をお待ちして居ます

慶應義塾制服御用

佐藤洋服店

三田四國町五番地  
電話高輪三二二四

心持よき

初秋のよそはひに

最も完備せる

弊店の洋服

慶應義塾學生共濟會洋服部

三田通公設市場前

中央洋服店

電話高輪三〇五八

三田學會雜誌 第二十二卷 第九號

アメリカ労働運動史に於ける

ヒューマニタリアニズム

一 産業不況と移民

アメリカに於ける一八三七年の恐慌に引續く産業不況は殆んど一八四九年に於ける金鑛發見の後に至る迄繼續した。其間に一八四三年及び一八四四年に幾分恢復をなしたのであつたが、之は此時代を概括して十五個年の不況時代と言ふ名稱を附するに影響を及ぼす程ではない。此不況失業の時代に於ては攻撃的労働組合運動は殆んど其跡を斷ち、慈善及び空想的改革の諸計畫が盛に行はれた。

之と同様の状態はヨーロッパに於ても見受けられるのであつて、それは一八四八年の革命に於て其極點に達したのであつた。而してアメリカに於ては一八五二年に至る迄金鑛発見の効果は十分に感ぜらず、労働組合運動の復活は其時まで齎されなかつた。然るに一八五二年に於ける産業復活は人道主義的空理論に終焉を告げさせたのであつたが、今度は長期の失業の後に生活費の急騰が起つたのである。然し一八五七年再び投機時代は破壊せられ、又復一八六三年の戦争景氣に至るまで繼續した六、七年間に亘る苦痛及び失業の時代が現出せられたのである。

一八四〇——一八四一年に於てニューヨーク市内に若干の労働組合が存在して居た。然しそれ等は小規模で且つ勢力の無いもので、一八四二年の物價下落によつて衰頹して終つた。然るに一八四三年の物價騰貴は三年間繼續し、労働組合運動の刺戟となつた。店舗の商品を以てする賃金支拂制度反對并に賃銀増額を要求するストライキが屢々行はれ、何れも成功を収めた。各地に短命な労働組合が発生し、ピッツバーグ及びシンシナティに於ては中央諸業労働組合が設立せられた。是等のストライキは新しき要素たる移民が當時のアメリカ工業に於て重

要なる地位を占めて居たことを示してゐる。一八三八年より一八四二年に至る間に於て農民の數は六千六百から一萬三千に増加したが、此間に於て熟練工及び不熟練工の數は八千三百より二萬九千に増加してゐる。

此時アメリカの労働代表者の間に移民問題に就て抗議が惹起されたのである。『工業の聲』(Voice of Industry) (マサチューセッツ州フィッツブルグ) はストライキ破壊者の移入に對して注意を喚起し、本國に於ける赤貧の状態によつて穩良、從順、柔和、節制に富める公民であり、資本家が適當なりとして命ずる一日十四時間十六時間の労働すべく、唯々たる多數の貧困にして隷屬せる下層民を作り出すことによりて『ストライキせる者』に對する防衛をなす資本家を非難して居る。(Commons, Documentary History of American Industrial Society, VII, p. 88) 『先驅者』(Harbinger) はアイルランド及びカナダの少女工の移民と共にニューヨークに侵入して來た貴族的及び階級的的感情に抗議をなしてゐる。從來農民の息子や息女は近隣の農場又は家内業務に於て賃銀を得て労働することを恥辱とは考へなかつた。現今の彼等は彼等の社會上の地位を理解する。『傭主が近隣の息子及び息女の補助に對し

て二月十二ドル及び一週一ドル與へればよいのであるが、彼等は半價で、然かも一寸の教導で同様に熟練を有する遙に素直な卑賤な者を得ることが出来るのである。「中流の農民は」今や彼等の息子や息女が、家庭、友人、親の保護を辭して、マンチェスター、ローウェル及びアンダーバーの工場に投ずるのを見る。(op. cit. p. 204)

反之、土地改革者は移民に對する反感に抗議して居る。其頃新しく組織せられたる「生粹アメリカ人の政黨に於ける布衣の黨員は、競争の打撃を蒙り窮迫せる労働階級であつて、之が指導をなす者は地位を、外様公民によつて蠶食せられたる役人志願者であつた。救済手段は外國人を「選舉權及び役職から除外するに在らずして、國を土地投機から解放し、人民をして、人民の農場に赴き耕作することを得せしむるに在る。之は又亡命せるドイツ共產主義者ヘルマン・クリーゲ(Herman Krieger)によつて提案せられたる、窮乏せる亡命者に對する救済手段であつた。「若し一度土地が解放せらるれば、正直なる労働は何れも『吾等の共和國に對する祝福』として歓迎せられるであらう」(op. cit. pp. 90, 91)。

若し四〇年代初の移民がアメリカ労働者によつて抗議及び救済手段を要求せ

しむるに至つたとすれば、四〇年代末及び五〇年代に於ける移民は、沿海諸市に於て極めて重大なる状態を呈したのである。蓋し一七九〇年より一八四五年に至る五十五年間の移民数は百萬を超ゆること幾何でもなかつたが、一八四五年より一八五五年に至る十年間には大凡三百萬に達してゐた。これはアイルランドの饑飢及びヨーロッパ大陸に於ける一八四八年の革命の結果であつた。移民の品質の變化も段々明白となつた。非常な激増は農民及び熟練工と區別せらるべき不熟練労働者にあつた。而して是等の移民の大部分は沿海諸市に住居を定めた。フィラデルフィアの人口は一八四〇年三十六萬より一八六〇年六十七萬に増加し、ニューヨークの人口は一八四〇年四十萬より一八六〇年九十一萬に増加した。斯の如く急激に人口が膨脹した爲に生じた問題并に一八四八年以後に起つた是等移民の窮乏せる生活状態に就ては當時に於ける官公の調査報告書に記載せられてゐる。次に其一例を示すこととしやう。一八五〇年三月ニューヨーク市の警察署長が人の居住せる地下室の調査をなした。それによれば一萬八千人が八千の地下室のみの處に住居して居たことを發見した。之はニューヨーク市の

凡そ人口三分の一は地下は生活してゐることを意味した。此調査の公報は言ふ。「全然宿泊のみに使用する地下室がある。藁敷二セント、板敷一セントで得られる。黒人、白人、男、女、子供が混じり一の汚しい集團をなしてゐる。最も戦慄すべき敗徳の場面が絶へず惹起される。『寢室は換氣採光が無く、微の生へた壁から昇る温氣が立罩め、蚤、虱等が充ちてゐた。實に是迄人類が就寢を餘儀なくせしめられたる最も接近し難き害である』(No. 11 American Review, LXXIV, p. 468 引用)。

機械の移入も亦労働の競争を激成せしめた。土地改革論者デーバー(Deyber)は一八四四年次の如く言つた。「機械は織布の殆んど全過程を占めて終つた。それは製鐵の總ての部門に於て確乎たる——急速と言ふことも出来る——進歩をなしつある。直線にも曲線にも動く新しく發明せられた機械鋸、機械鉋、機械柄鑿が木工等の全般に利用せられる運命を有する事を明に吾等に戒告する。一方に於ては既に吾等の手工等の或物が滅亡した。その何れも此神秘的勢力の偉大なる競争を豫め經驗せざるものは無かつた。

因人労働の競争に對しても當時始めて相當の勢力ある組織的抗議がなされる

迄になつた。一八四二年職工の秘密組合が「フアロー」に於て「職工相互保護の名の下に起つた。其指導者は一八三六年スコットランドより移住せるロバート・マックファールン(Robert Mac Farlane)と言ひ、後「科學的アメリカ人」(Scientific American)の主筆となつた者である。此組合は一八四七年最も盛大を極め、ニューヨーク、オハイオ、ミシガン、ペンシルベニア、ウイスマコンシン諸州に支部を有した。而して組合の主要目的は競争的因人労働の徹廢であつた。(Commons, History of Labour in the United States, pp. 487-492; Perlman, History of Trade Unionism in the United States, p. 29; Beard, Short History of the American Labor Movement, pp. 54-55; Bimba, History of American Working Class, pp. 64-65; 66; 101-102)

## ニ フリエー主義とアソシエーション

一八三七年の恐慌に伴ふ長期の不況は前代未曾有の社會不安の感情を生ぜしめた。三〇年代の労働組合運動は仲介者を壓服せしむることが出来なかつた。新に獲得したる選挙権は賃銀労働者を向上せしめずして中間階級の政權を擴張せしめた。拘束の無い競争は賃銀労働者并に資本家に對して齊しく困惑を齎し

た。之が救済手段は農業及び國內工業によつて支配せらるる理想化する植民地經濟制度に復歸することに求められた。

一八二六年ヤバート・オーエン(Robert Owen)はイギリスより渡來し、インディアナ州に於て有名なニュー・ハーモニー植民地を開始した。彼は多くの階級の労働者の外に卓越せる科學者の一團を伴ひ來つた。彼の社會主義計畫は嚴格に家父權的であり、而して當時幾分の注意を喚起したのは勿論であるが、當時に於ける工業及び商業の要求する状態よりも遙かに進歩したものであつた。それは一八二七年より一八三七年に於ける労働運動に對して殆んど影響を與へなかつた。但、初期の運動に僅にロバート・デール・オーエン(Robert Dale Owen)及びフランシス・ライト(Francis Wright)の兩人物を出したのみである。然し乍らニュー・ハーモニーに於ける實驗の失敗から後年の多くの運動并に理論が起原を發してゐる。或物はオーエンの計畫を直接模倣したものであり、他の或物は彼の計畫に對する直接の反動であつたのである。後者としてはジョサイア・ワレン(Josiah Warren)の學說及びアメリカ智的無政府主義學派があり、前者としては一八四〇年以降に續出

した數個所の植民地が擧げられる。

オーエンの計畫に於ける家父權主義及び權力の集中はアメリカ人の思想に適合しなかつた。而して之が爲に一八三七年より一八四九年に至る長期の不況が労働状態に注意せしむるに至れる時、此注意は極端に個人主義的なる學說によつて嚮導せられたのであつた。小規模獨立工業の理想化する植民地制度は先驗論の學說方面に現はれてゐる。先驗論は新教派の宗教精神と社會關係から獨立せんとする個人主義との結合したものである。それは其消極方面に於ては批判主義精神及び傳統并に便宜主義に反對する改革精神であり、其積極方面に於ては人道を神格に扱ひ個性の束縛せられざる進展を要求した。先驗論は四つの形態をとる。(一)審美個人主義、ソーロー(Sorley)の著書に説かれたる純粹の無政府主義の形態、(二)睿智個人主義、エマソンの「改革者たる人」睿智「自信」大靈、(三)イングラッド改革者等に現はれたもの、(四)協同個人主義、ウィリアム・チャニング・ウィリアム(William H. Channing)のとるところで、アンシエーション運動を刺戟したものの、(四)自壞個人主義、オレスツェイ・ブラウンソン(Orestes A. Brownson)の説之れである。

最後に掲げたブラウンソンの生涯は極端に勞働状態が當時の智的不安及び宗教不安に影響せることを示して居る。彼は一八二九年より一八四〇年まで勞働者運動と實際に關係を有したのである。彼は一八〇三年バーモントに生れ、其最も早く受けた教育は宗教教育であつた。然るに彼は手當り次第に讀書したので、急速に組合派から長老派、宇宙神教、無宗派論に移り、懷疑派、無神論になつた。而して彼は教會及び國家が共に大衆を無視せるを攻撃した。彼の教會と國家に對する不満は一八四〇年ボストンの「季刊評論」(Quarterly Review, 1840, III 358-395 Commons 引用)に掲げたる「勞働階級」に關する論文に於て其極點に達した。其處で彼はヒューインングランドの少女に對する工場制度の影響を記して居る。「非常なる大衆が健康、意氣及び徳性を破壊し、然も勞働を開始せる時に比して微塵も生活は樂になつては居ない。是等の工場村落に於ける死亡表は奇異なるもので無いことを認める。何となれば可憐なる少女は勞働し得ざるに至れば郷家に死に行くからである。……吾等は日の出に、又は朝食時間に、又は晝食時間に鐘が鳴り、百千の職工が呼出される時に工場村落の呈する光景より此世に於て悲愴なる光景を知ら

ない」彼は記する。「我等は宗教上の不平等の原因を探求せんとして之を僧侶にありとする。彼等は一般に暴君である。舊教の僧侶と新教の牧師との間に差別は無い。何れも破滅すべきものである」。僧職の顛覆と總ての獨占と總ての特權との打破の後には人道主義の原則、地上に於ける神の國の建設が行はれねばならぬ。ブラウンソンの考へる處によれば目的の重要な爲には如何なる手段をも、縱令暴力さへも正常とするのである。(以下數行省略。詳しくは Brownson, Brownson's Early Life, p. 248; Commons, History of Labor, pp. 495-496 引用を参照せられんことを乞ふ)。然るに是等の極端なる攻撃によつて惹起されたる憤激がブラウンソンの思索に新しき轉換を生ぜしめるに至つた。從來、彼は艱難せる人類の状態を觀察し、而して其原因を指摘するに就ては自己の推理力に依頼した。然し彼が前段の叙述を吟味せる時、彼は證明の希望を捨てて信仰に依頼したのである。斯くして彼は正反對の方向に進み、後にロイヤルマセ教に歸依し、勞働問題の解決に於ける理性説に非らずして權威説の主要人物となつたのである。(Commons, History of Labor, pp. 493-496 Bimba, pp. II-113)

斯の如き社會上知識上及び宗教上の不安は社會改造を企つる計畫を普及せしむるによき土地を提供した。此處にアンシエーション、即ち愛の宗教と國內工業の節約との結合したものの種子が栽へられたのである。アメリカのアンシエーションの學説はシャルル・フリエー(Charles Fourier)の學説から生れたのであるが、彼の社會改造に關する思想は宇宙の根本よりの協調の信念に出づる。而して此信念の上に總ての人類の活動を規律する計畫を形成した。彼の目的は社會を支配せんとする法則の發見にあつた。此點に於て彼は後の社會學者殊に現代の心理學的社會學者に對する先蹤者と稱せられてもよい。然し乍ら彼の學説の依存する心理學は正確には骨相學と稱せらるべきものであらう。而して彼の信ずる社會進化は人の過去、現在及び未來に於ける社會生活を盡くす時期を決定的に機械的に豫め天命の定めたる配列である。フリエーの時代に至る迄に社會は是等の時期の唯八つのみを経過したに過ぎぬ。人類の爲に豫め天命の定めたる殘餘の二十八時期毎に人類が進歩し、之によつて社會上の運命を満すことが出來得る方法を發見したのは彼の特權である。自ら考へた。フリエーは自らニュートン

が天文學に對して爲したる偉業を社會科學に對して爲したと考へた。ニュートンが遺したるところより始めて、フリエーは引力の大自然法則に基ける宇宙の統一を信ずると明言した。是は等しく精神界の運動にも適用せられ、總ての創造物の形態、性質、色彩、香氣にも適用せられ、本能及び意慾の分配にも適用せられ、而して最後に人類社會の機關にも適用せられるのである。是が最も有力なるアメリカのフエリー制度の使徒を刺戟して次の如く叫ばしめたる根本學説であつた。「嫌惡、衝突及び壓迫せしむる競争によるに非ず、國と國との間たるか、階級と階級の間たるか又は資本と勞働との間たるかの戦争によるに非ずして、結合、協調及び總ての利益の一致、總ての高尙なる感情及び刺戟の限定せる範圍は世界を改新し、墮落せる而して艱難せる人類の大衆を向上せしむることが出来る」。(ブリスベーンの「註解」の扉にグリトリートの書ける言葉)

フリエーをアメリカに移入せるはアルバート・ブリスベーン(Albert Brisbane)であつた。安易と豪奢の中に在りてブリスベーンは大衆の生活を自ら經驗したことは無かつた。ブリスベーンは人性の問題に就て反省すること多かりし父の感

化を受けて、其心中には社會の疾患に對する満足なる救濟手段を求めて社會學說を承容れ、慈善に關する文献を涉獵した。此研究の爲め彼は十九歳の時ヨーロッパに赴き六個年間ギゾット、ペーゲル、ガビニの如き教師の下で勉強した。彼は始め、カンシモンの學說を奉じたが、後に之を「人爲的であり、或點に就ては謬つてゐる」として排斥した。彼は偶然スリエーの著「國內農業組合」(L'Association Domestique-Asticole)を其手に收むるまで人類合同の單一說に心粹するには至らなかつたのである。彼の改宗は突如として起り且つ完全であつた。彼は新福音の弘布をなす召集を受領し、而して彼の人生の進路は一變した。彼は當時の他のアメリカ人と異り、スリエーの信仰に關する學說を盡く認容した。彼に取つては「人類の社會的運命は引力と同じやうに決定せられ、豫め天命によつて確定せられてゐた。人類にとりて残る處は彼が運命を荷へる社會の制度を發見することにある。此制度が一度發見せらるれば、彼自らスリエー主義に改宗せるが如く突如として且つ完全に世界が改革せられるであらうと期待した。

ブリスベーンは一八三四年アメリカに歸り、而して講演論文、宣傳の爲め自ら、愉快なる労働に關する知識を完全にせんことを努めた。宣傳者として彼の最初の活動はスリエー主義を研究する爲に人の集團を組織するにあつた。是等は既に一八三八年に現はれた。然し乍ら知らるるところが多くなき、其影響も疑はしい。

アンシエーション運動が眞實開始せられたのは彼の處女作「人類の社會的運命、別名、アンシエーションと工業の改造」(The Social Destiny of Man, or Association and Reorganization of Industry)が一八四〇年出版せられた時である。續いて「アンシエーション學說略解」(Concise Exposition of the Doctrine of Association)を發行した。何れもスリエーの說をアメリカの事情に順應せしめたのである。ブリスベーンが其後の十年間に多くの新聞并に改革の公刊物と關係を有せるは、單に宣傳の爲のみであり、又彼が多數の協同組合企業を訪問せるは、不満なる労働者の耳を捕へ得たる時に何時たりとも議論せんが爲に説明材料を蒐集する目的であつた。

當時の自然權を奉ずる學者は労働者及び他の總ての者が獨占權者から壓迫せられ、生産物の正當なる分配額を掠奪せられるとなし、彼等は公平なる分配制度を要求した。其要求を實現せしむるには、先づ自然權に對する獨占權者の支配を廢

止することが必要である。此改革を完成する手段は立法にあるとする。然し乍らブリスベーン及び其同志にとりては賃銀労働者及び總ての階級は立法が競争を制限せず自由競争の萬般的效果によつて苦惱して居るのである。故に救済手段は有效なる生産方法に之を求めなくてはならぬ。ブリスベーンの計畫に於ては資本家は資本を所有するが故に依然として收穫の配當に與かる。然し乍ら資本家に附與せらるる十二分の三が労働者の損失に歸せざるやうに生産は増加するであらう。(右の外不熟練工は十二分の七、熟練工は十二分の二を受けるのである)然らば現在の不平等は承認せられねばならぬのであると同時に協調主義の寛大なる作用が衝突を惹起さずして未來に於て正義の法則が保障せられ而して過去の不正の効果をも除去するに至るであらう。彼が生産増加を保障する爲に利用する手段は立法ではない。社會は根本を人の意欲又は希望に置く處の「集團」、「部類」、「部隊」に改造せらるべきである。然らば期せずして生産は増加するであらう。蓋し人が其好む儘に労働し又好む者と共に労働するに至らば忽ち労働は心を惹著くるものとなるによるのである。此生産者の心理に基く能率の檢定はブリス

ベーンの教理の核心である。彼は倫理、正義、人權に關する新しき制度に精通し卓越してゐるのではない。奴隸制度は單に嫌忌せらるる労働を克服する一つの形態である。他の形態は雇傭労働及び工場制度である。是等は何れも非難せられる。蓋しそれは不公正なる爲に非ずして競争が之を不用ならしめるからである。此説を一言にして批評すればフリエトもブリスベーンも生産増加に熱中し、生産者は又消費者であることを忘れて、人が労働する主要目的を破壊しなくてはならぬ計畫を工夫したと言ふべきであらう。(Commons, *History of Labour*, pp. 496-500; Perlman, p. 29; Beard, p. 60; Bimba, p. 113; Ely, *Labour Movement in America*, pp. 20-21)

ブリスベーン最初の有力なる歸依者はホレス・グリートリ(Horace Greeley)であつた。彼は出藍の譽を負つた。それは彼が労働階級に關する知識を有し、缺點と限度とを知つてゐたことに原因し、又彼の經驗が實行不可能なることを示すフリエト主義の一部を認容することを拒絶したことに原因する。グリートリは少年時代を貧窮の裡に過した。彼は二十歳に達する迄、ハンブシャーの小村に住居し、而して成年に達するまで「大衆」及び「階級」等の觀念を殆んど會得しなかつ

た。彼の道徳及び實業の規準の養成せられたる初期の訓育は清教主義であつた。然し彼の總ての哲學の中最も先に來る唯一つの觀念は普通の正義であつた。此觀念を彼は先驗論者の學說から得た。正義は組織に依倚せずして人格に依倚する。彼の第一着手の改革は個人であつた。彼は改革者たるよりは寧ろ牧師と言ふべきであつた。勤勉と節儉によつて賃銀労働者より僱主に出世した。三〇年代の末に於ける破産の用心に對する經驗、漸次事業の集中せらるることに對する知識、隸屬賃銀労働者の漸次増大することに對する知識が、グリーリーをして彼自ら獨力を以て爲し遂げたることを他の者は協力して成就し得る計畫を探求せしむるに至つた。ブリスベーンに取りては、アッシュェンションが目的であつた。グリーリーに取りてはそれは各個人に「労働の全生産物を保障する手段であつた。之と同様にして彼は土地改革労働組合運動、労働立法、通貨改革、奴隸制度廢止等の彼が以て普通の正義を齎す助となるを信ずる部分を認容した。グリーリーは其全生涯を通じて急進論者及び保守論者の兩者よりの批判的であつた。彼の労働階級に關する知識は改革論者の不可能なる觀念の認容に對して自ら衛ること

ろがあり、彼の被壓服者を援助せんとする眞摯なる希望が後者の放任政策に默従することを許さなかつた。(Commons, Documentary History, VII, Introduction)

一八四〇年及び一八四一年の始めにグリーリーは彼の機關新聞「ニューヨーク人」(The New Yorker)の可成の紙面を割いて労働階級状態の討論に充てた。此頃ブリスベーンの第一著作が公にせられ、間もなく彼の雜誌「未來」(The Future)が之に續いた。グリーリーは直に其中に見出した「實際的提案」を認容した。彼はブリスベーンの宗教觀に基いて反對する多數の友人は耳をも藉さずして之を敢行した。而して一八四二年三月ニューヨークの「トリビュン」(Tribune)が創められた時、一欄が同様の討論の爲に充てられたのであつた。此グリーリー及び「トリビュン」の影響は四十年代に於けるアッシュェンションの發展に最も大なる力を與へた。此頃は於ける同主義の宣傳をなす他の刊行物は多數に上るが、其中でも著名なものは一八四三年十月ブリスベーンとマクダニエル(MacDaniel)の創刊した「フランクス、別名、社會科學新聞」(The Phalanx or Journal of Social Science)であつた。之は一八四五年五月二十八日を最後とし、其後は「ブルック・ファーム」(Brook Farm)に移

り「先驅者」(The Harbinger)と改稱して、一八四九年迄繼續した。其他ボストン、ピッツバURG、シンシナティ、アトナ、バー等の各地からも新聞が發行せられてゐた。四〇年代に於て或は著述家として、或は辯士として、或は又組織者として活動した者の中には當時アメリカに於て著名な歴史家、論說家、雄辯家、新聞記者、詩人、美術家の多數が擧げられる。然し是等の人々は明白に中流階級の人々であつて、大衆と共に骨折仕事に従事した者は多くなかつた。

然も愉快なる勞働は肥沃なる地に根を下した。不滿を懐く勞働者は新福音を傾聽した。一八三八—一八四〇年のフリモア俱樂部は單に改革家及び學生より組織せられてゐた。而して一八四三年に宣傳時代が開始せられた。實行せられた第一の計畫は郡區又は方面の大會であり、其處でズリス、ペーン其他の者が主義の説明をなしたのである。此方法は各地方に於ける運動の贊助者の團體及び出來るならフランクスの建設が之に續いたのであつた。而して宣傳の目的及び方法を明瞭に理解せしめんが爲にアソシエーションの贊助者の大會が一八四三年十二月二十六日及び二十七日の兩日ボストンに於て開催せられた。次で第

二回の「アソシエーション贊助者大會」(Convention of Friends of Association)が一八四四年四月ニューヨーク市に於て開催せられ、ニューヨーク、ペンシルベニア、バージニアの諸州から代表者が出席した。是等二種の團體は一八四六年アメリカのアソシエーションニスト組合(American Union of Associationist)が組織せられる迄存続した。此全國的團體の目的は各地方又は各方面のアソシエーションの交換所たらんとすること及び宣傳事業を實行することに在つた。而して一八五〇年迄存続したが、此時アソシエーションの勢力は殆んど消滅して各種の形態に於ける協同組合が之に代ることとなつたのである。

フリーエー主義はアメリカに論理上の本源を有しないのであるが、其アメリカ化したる形態——アソシエーション——は社會を改造せんとする從來の諸種の計畫による準備に對する外は、殆んど支持せられ得ない。而して是等の計畫は大略三つの種類に分けて考察することが出来る。第一は一八二六年のオリエン主義は失敗したけれども、總てのオリエンの信奉者が失敗を承認したのでは無い。一八三七年の恐慌から恢復するや否や、オリエン協會が多數の地に於て續出し、若干の

オーエン共同團が目論見られた。一八四一年一月「新道德世界の報知及び一千至福年の先驅者」(Herald of the New Moral World and Millennial Harbinger)が復活した。オーエン主義の機關としてニューヨークに現はれ、一八四二年八月迄繼續した。此頃ニューヨークには「オーエン合理宗教者協會」(Owen Society of National Religionists)があり又他に之と稍宗教觀を異にせる團體もあつた。恐らく此當時に於ける最も卓越せるオーエン主義者はジョン・ケイ・コリンズ(John A. Collins)であつたらう。彼はスカシオン州共産團を建設した。而してそれは一つの反奴隸制度の施設で、オーエン主義に基き「共産主義」と稱する機關紙を有して居た。此オーエン共産團の復活の企圖は失敗に終つた。然し乍らオーエンの社會改造の理想は其勢力を保有し、唯新しく之を表現することを必要としたのみであつた。第二に舊來の宗教的共同團が疑も無く共同組合運動に資するところがあつた。是等の團體の中には「エフ・ラファエリスト」(Ephraimists)、「メンカーズ」(Dunkers)、「モラビアンズ」(Moravians)、「シャカーズ」(Shakers)、「ラピテス」(Rappites)、「ゾアテス」(Zoarites)、「スノーベルガーズ」(Snowbergers)がある。是等の團體は其團體員が來世に入る爲

に十分準備を整へんが爲に現世の汚穢を身を遠けるといふ宗教哲學に基くものであり、其或物は数十年間存續し、團體員千名以上を數へるものもあつた。第三に經驗論者がキリストの説教したと信ずる天國を地上に於て而して今生に於て建設せんことを助ける近年の企圖があつた。同様なる精神に出づる共同團に對する唯一神教徒の希望は「ブルックファーム」(Brook Farm)となつた。宇宙神教徒は「ホープデール」(Hopedale)を建設した。而して前者は間も無くアソシエーションの學說を認容し、該運動の中心となつた。

ニューヨークの「トリビュン」がブリスベインの爲に一欄を提供すると間もなくアソシエーションの實際經驗は何處に於て又何時頃から行はるるかに就て質問が來た。ブリスベインは此要求に對しては何等用意してゐなかつた。然しグリリーの援助によつて尠く共四十萬ドルの資本を以てする二千人のアソシエーションの計畫に着手した。一八四二年ニューヨーク市の近傍に位する「北アメリカ・ファランクス」(North American Phalanx)に對する資金釀出の申込を受ける事務を開始した。應募は遅々として進捗しなかつた。そこで翌年の始に至り忍耐

毛切れない熟練工の一團は若干の賛助者の助力を得て「シルベニア」(Sylvania)と稱するアソシエーションをペンシルベニア州西部に建設した。ブリスベートンは當初此計畫を承認することを拒絶した。何故なれば彼は此制度の莫大なる利益及び協調——社會上并に物質上の——を公示するに足るだけ十分に大規模なるアソシエーションを建設するか、若し然らざれば學説を學説としてだけ弘布することを繼續したいと希望し定めたからである。「シルベニア」はブリスベートの最初のものであつた。之に續いて尠く共四十の他のブリスベートンが建設せられ、それよりも多くのものがイリノイ州からマサチューセッツ州に跨る廣汎なる地域に亘つて提案せられた。一つのブリスベートンに屬する團體員は十五名より九百名に及び、土地の面積は二百エーカーより三千エーカーに及んでゐた。ブリスベートンの希望せる處によれば「北アメリカウエスタンクス」はアメリカに於けるブリスベートン主義團體の將來の發展を卜すべき考試の實行であつた。該ブリスベートンは一八四三年九月着手せられ、十四個月後に於ける土地及び改良設備等を合算したる團體財産の總價值は二萬八千ドルであつた。而して其團體員は當時

七十七名、其中二十六名は十六歳以下の子女であつた。之に次ぐ八年間に於て財産は八萬ドルの價值に増加し、團體員は百十二名、其中二十七名は十六歳以下の子女であつた。之が恐らくブリスベートン内には於ける繁榮の極點であつたらう。一八五三年春——ブリスベートの第十年——軌轍が増し、一部の團體員は分離して「ニュー・ジャージー州バース・アソシエーション」に於ける「ラリタン灣組合」(Raritan Bay Union)と稱する新しいアソシエーションを組織した。舊「北アメリカウエスタンクス」は實質上翌年九月に消滅して終つたのである。尤も役員は一八五六年の始まで財産を所有し、此時に至つてアソシエーションを解散し、殘餘財産を賣却したのであつた。存續年限と財政上の成否の點に於ては「北アメリカウエスタンクス」は容易に他の同類を凌駕した。然し乍ら其團體員は最多數の時に於ても僅々百十二名に過ぎずして其所期したる人數の十六分の一にも足らなかつた。而して又其財産は提案した額の二十パーセント以上には一度も上つたことが無かつた。加之、其閉鎖したる時に方つては負債を生じてゐた。然し乍ら斯る時期の到來せざるに先、而して勞働者はブリスベートンから援助を得んとする期待を捨て、同時にブリスベートン

并に他のアシシエーションの實際的信奉者は其信條を特定の弊害を救済することに適用すべく注意を轉じて居た。(Commons, History of Labor, pp. 500-506; Perlman, pp. 29-30; Beard, pp. 60-61; Carlton, History and Problems of Organized Labor, p. 44; Carlton, Organized Labor in American History, p. 96; Birnba, pp. 113-114; Ely, pp. 20-24)

### 三 アシシエーションより協同組合へ

何故にブリスベーン及び其信奉者が愉快なる労働の基礎に於て社會を改造せんとする計畫に對して熟練工及び不熟練労働者の興味を惹起さしむることを得なかつたか。其主要なる原因はペンシルベニア州の原野に所在するフランクストンとフライデルフィアに於て労働階級が遭遇せる邪惡との間の關係を彼等が見る能力を有しなかつたことに在る。彼等は家族關係の現在の形態と相争ふことも爲なかつたし、家庭の私事も相争ふことを爲なかつた。彼等はブリスベーンの信ずるが如く現在の文明が全然不良であり且つ總ての現在の制度を顛覆せしむる完全なる改造が之を救済する唯一のものであることをも信じなかつた。其代りに彼等は賃銀を支配する傭主物價及び信用を支配する商業資本家并に銀行家、

賃借料を決定する地主が特殊の壓迫者たることを承認した。是等の三階級に對する保護の要求に應ずる爲にグリトリイ及びアソシエーションの他の實際的信奉者は労働の威嚴と吸引力に對する熱心が減退することを承認した。ブリスベーンの信奉者に非ずして同一の目的を成就せんと計畫せる他の改革者と共に、彼等はアソシエーションの經濟思想に對して諸種の修正を考案した。是等の修正は彼等が救済せんとする特殊の壓迫如何によつて次の如く分類せられる。(一)傭主によつて課せらるる邪惡を芟除する爲めの生産協同組合の計畫。(二)商業資本家及び銀行家による苛求を防止する爲めの分配協同組合及び銀行及び交換制度に於ける改革。(三)高價なる家賃の壓迫を寛かにする建築アソシエーション。是等の改革は其作用に於て相互に關聯し且つ其完全に成就せる曉に於ては國家の活動を不必要ならしむるものであるが、それにも拘らず其中には晩かれ早かれ改革的方法に對する要求のあることを示してゐる。

グリトリイは最初に現在の賃銀并に利潤制度に代るべきものとして、一八四八年の革命以前にありてもフランに於て相當成功を収めて實行せられたることあ

ると同じ労働と資本との結合を提案した。此計畫は労働者に公正なる賃銀を與へ、資本家には公正なる利潤率を認め、且つ労働者と資本家との間に餘剰を分配せんとするものである。ピッツバーグ及びアレガニー市の綿製品製造業者が、一八四八年に州法が一日の労働時間を十時間に短縮したるが故に、彼等の使用人の賃銀を減額しなければならぬと公告したる時、グリーリーは彼等に利潤分配制度の採用を提案した。此提案をなしたる時、彼は次の如く言つた。「若しも現に綿紡績工が彼等の労働の最低市場價值を支拂はれて居り、第二に業主が其資本の公平なる利子と其熟練監督等の市場價值を支拂はれて居り、而して第三に差額が業主、支配人及び總ての職工に利潤として分配せられてゐるとすれば、吾等は敢て斯の如き結論を聞くことが無かつたであらう」と。彼は此計畫の長所として(一)就業の永續すること并に確實なること、(二)共存共榮なること、(三)浪費を避け生産を増加せんと總ての者が熱心に努力すること、(四)資本と労働、備主と使用人の間に共和的關係を生ずること、(五)總ての相互福利の爲に各自が總ての技能を献ぐることを擧げてゐる。

利潤分配が成功を収めることが出来なかつた時、グリーリーは資本家を資本家として排斥し、而して資本家と賃銀労働者の職能を結合する組合を願つたのである。彼は此時にも他の時に於けると同じく、備主、商人、地主が賃銀労働者の唯一の仇敵であると信ずる人々に反對した。現今の労働者を第一に壓迫するものは彼等自身の惡徳の最大なるもの、即ち彼等の放逸性、利己主義、肉慾主義及び(恐らく餘り根強き基礎を有する)相互の不信である。當重ニ、即ち、市の労働者は實際窮乏してゐる。然し乍ら若し彼等が詐取せらるることを恐れさへしないならば、彼等は明日五十萬ドルを共同利益の何等かの目的の爲に集めることが出来る。彼等は相互の信頼を缺如し、それを振起せしむる性質を非常に缺如してゐると主張した。グリーリーは斯の如き不信なるにも拘らず、生産協同組合の可能なることを信じてゐた。尤も彼は主として此計畫を認容することを青年に期待したのであつた。蓋し家族を有する男は恐らく投資する多くのものを所有しないだらうと思つたからである。彼の生産協同組合は、自家雇傭と言ふ名辭を以て表現せられて

ある。勿論他の改革をも推奨してゐるが、賃銀制度の廢止が彼の主要なる希望であつた。而して之が爲に彼は生産協同組合の唱道者であると思考せられるのである。傭主が彼の製品の販賣者である範圍に於て、生産協同組合によつて傭主を廢止することは、彼の商人としての職能の消滅を意味するのである。斯る場合に於て協同店舗又は倉庫は生産物の製造と販賣との職能を兼ねるのである。

生産協同組合の偶然の効果の外に分配協同組合の原理を信ずる改革者には尠く共次の四つの明確なる階級別がある。第一の部類に屬する者は分配協同組合を生産協同組合に至る飛石として認容する。彼等は賃銀よりする貯蓄の限度を承認して、賃銀労働者にとりて可能である協同店舗を創設するに必要な比較的少額の資本の蒐集を可とする。然し乍ら彼等は生産協同組合を建設するに十分なる蒐集を賃銀より成る貯蓄から擧げることが出来るか否かを疑問とする。彼等の店舗より得る利潤を持分の所有者に分配する代りに貨物の製造并に販賣の爲に十分なる資本を利用し得る迄之を集積することとする。第二の部類に屬する者は第一の部類の者と同様に労働者は傭主及び商人の兩者より詐取せられる

ことを信ずる。然し乍ら労働階級は事業に於ける誠實と經營能力を缺如するが故に、彼等は生産協同組合を實行不可能なりとし、價格を規律する協同店舗を望むものである。是等二つの部類からの抗議によつてヒューマンランドに於て卓越せる生産協同組合の思想が發展したのである。元來此組織の計畫は二つの目的を有つてゐた。第一は卸賣を以て家庭の消費に充つる貨物を購入し、而して之を原價にて賣却すること、第二は一種の相互保險たる働をなすこと之である。後に組合聯合が組織せられ共同購入部が附設せられた。

第三の部類は現在の價格決定制度に就て其原則にあらざれども其必要以上の取引の中に弊害を認める。之が救済は單純で小賣業を集中すればよいのである。提案せられたる計畫によれば労働組合員たるを否とを問はず總ての賃銀労働者より成る「協同労働團」(Co-operative Labor League)を組織するのである。該團の編成と管理は労働指導者及改革賛助員より成る「統制部」に委任せられる。此局の任務とするところは市の調査をなし團體員の要求に應ずる供給をなすに必要な店舗数の最小限度を決定するにある。然る上は契約を當該数だけの最も取引に都

愈よき地位にある小賣商と締結する、而して是等の指定商人は團體員が専ら彼等とのみ取引する報酬として體體員に對して相應の減價をなすのである。他の計畫と同様に是も亦萬能の效ありと申立てられた。是は物價を低落せしめ、勤務の能率を増加せしめ、信用制度の弊害を除去し、生産に使用せらるる資本を増加せしめ、賃銀を刺戟し、而して必要以上の商人を驅逐し、彼等の占有せる土地を労働者の住居に利用することを得せしめ、斯くして家賃を低下せしめ、密集を緩和し、家庭を樂しきものとし、最後に賃銀労働者をして資本家及び地主の桎梏より解放し、社會に於ける有害なる區別を撤廢するものである。第四の部類の者は交換及び銀行制度に於ける大衆を壓迫する弊害を探求した。彼等は商業資本家と銀行家を傭主と労働者の共通の仇敵であると信ずる。之が救済手段は二種類ある。乃ち上述の如き協同購入部又は店舗、第二は労働に對する全價值を生産者に保障するやう交換及び銀行制度を改善することである。而して此第二の改善策には種々の形態がある。(Commons, History of Labour, pp. 506-510; Birba, p. 114)

一八四〇年代に於ける交換制度の改善案は當時の労働費説に基くのである。

勿論當時に於ては「労働なる名辭は筋肉労働、精神労働、經營労働を含蓄し、又當時の資本集積は節慾を必要とせずして唯單に労働者の筋肉職能に精神職能及び經營職能を附加することによつて出來たのである。従つて自由競争の結果、貨物の供給は斷えず貨物が労働費に從つて交換せらるる點に接近する。此事は労働の所産なるが故に固定資本に就ても言ひ得る。然し乍ら商業資本家は交換媒體を獨占することによつて労働費によつて貨物が相互に交換せらるることを防止する。眞の交換の基礎に復歸するには商業資本家の獨占權を破壊しなくてはならぬ。

「斯の如き推論から交換媒體并に方式を一新する數種の計畫が發生した。而して其計畫にはジョシア・ワートレン、ウィリアム・ベック、ウィルヘルム・ワイトリン、グジョシ・キャンベル、ステイブン・パール、アンドルース、エドワード・ケロック等のものである。

ジョシア・ワートレン (Josiah Warren) は最初のアメリカ無政府主義者であると稱せられるが、彼は一七九八年ボストンに生れ、三十歳にしてシンシナティに移つた。彼は本來ロバート・オリエンの使徒であつて、ニュー・ハートモニのオリエン主義者

の植民地に二個年を過した。然し乍ら間も無く社會主義より極端な無政府主義に轉じた。一八二七年彼は其「労働は労働への學說を實行する第一の時間店舗を開設した。此店舗に於ては利潤を得ざる價格を以て貨物が販賣せられ、支拂は購買者が製作者に所要労働時間と同量の時間労働することを約束する労働紙幣を以て行はれるのである。ソーレンは一八四七年オハイオ州に又數年後ロングアイランドに此原則を實行する植民地を建設する援助を得た。而して彼は一八四六年「衡平商業」(Equitable Commerce)なる著書を公にした。然し乍ら其學說の宣傳には主として一種の漫談の方法を用ひた。彼の政治思想は極度に個人主義的であり、政府の總ての活動を私人の手に移さんと希望した。

一八三九年ウィリアム・ベック(William Beck)は切符交換制度を提案した。彼は貨幣が純然たる交換取引の媒體なることを認容し、之に代るに債權者債務者間に於て一種の帳簿記入を以てせんとした。而して總ての財産は同一價値の切符を以て代表せしめられ、之が交付は政府の手に於て爲さるることとした。貨物の賣買は勿論、授信、抵當等も貸借であるが故に同様の方法を以て記帳せらるるのであ

る。ベックの主として目的とするところは獨立工匠をして商人としての職能を恢復せしめんとするにあつて、職工の地位を向上せしむることに深く關係したのでは無かつた。

ドイツより移住せるウィルヘルム・ワイトリング(Wilhelm Weitling)も當時に於ける交換銀行の有力なる唱道者であつた。ワイトリングは其少年時代を「自由主義の温床」であつたドイツ・マゲブルクに於て過した。「彼は體驗によつて貧窮を知り、相傳によつて總て主と稱せらるる者に反感を抱懷してゐた」。一八三七年彼はパリに赴き、其處で「正義人同盟」(Bund der Gerechten)の活躍せる加盟者となつた。彼の深い宗教上の信仰は彼をしてグリーリーと同様に道德に基く改革を主張せしむるに至つた。彼は早くより新聞事業に従事した。然し乍ら彼の知られたる處女作「人性、其現状と理想」(Die Menschheit wie Sie ist und wie Sie sein sollte)は一八三八年に出版せられた。其初期の思想の大系は始め一八四二年に出版せられたる「調和と自由との保障」(Garantien der Harmonie und Freiheit)に示されて居る。此社會學說は三つの根本慾望即ち獲得慾、享樂慾、知識慾に基くのである。人類の慾望は才

能によつて満足させられる。慾望が才能を刺戟する。而して之が活動を起させ、活動の結果が享樂となり、之は又慾望を覺醒させるのである。此處に人類進歩の自然法則がある。それ故に總ての社會組織は個人に對してあらゆる慾望と才能との自由と調和とを保障することを任務とするのである。彼は一八四七年十二月アメリカに渡航したが翌年の騷擾によつて再びヨーロッパに歸り、一八四九年八月アメリカに再航し、一八五〇年一月ニューヨークに於て「労働者共和国 (Republic der Arbeiter)」の刊行を開始した。之は當初月刊後週刊となり、更に月刊に復したが、其目的はアメリカに於けるドイツ労働者間に彼の思想を弘布するに在つた。乃ちグリーリーがイングラント人及びアイルランド人になしたる處を此新聞によつてワイトリングはドイツ人になしたのである。

ワイトリングによれば現在の貨幣制度は一方に於て富と權力の能力を増加し他方に於て貧困と窮乏とを増大せしむる。彼にとりては儲主に非ずして商業資本家が労働者の一大仇敵である。而してあらゆる團結と努力が此階級を相手とすべきである。此故に彼は生産協同組合に賛成しない。グリーリーの自家雇傭

并にアソシエーションの思想に對する彼の反對は彼の新聞の初號に現はれてゐる。「植民地建設より或は現在の協同店舗敷を更に増加することより事業を始めるは推奨し難い。……第一に之によつて吾等は勢力を分割すること。第二に他の手段を以て始むる方財産を作ることが容易であり従つて參加者の大なる利益に之を利用し得ること。第三に總て是等の實驗は資金の缺乏に苦しむのであるが、之は交換銀行によつて改善し得ること。第四に斯る微小なる店舗及びアソシエーションは人類の意慾に十分の餘地を提供せざることによるのである。」

ワイトリングの建設的學説は彼の「交換銀行」具體化されてゐる。「交換銀行は總ての改革の精魂である。總ての協同組合事業の基礎である。彼の提案によれば原料品と精製品との店舗を設置し、交換の媒體として紙幣を發行すべしと言ふ。而して労働者は是等の店舗に製品を齎し、其労働價值に應じて之と交換に所要のものを受領するのである。此制度に伴ふ利益として彼の列擧する處は、(一)失業并に其弊害を撤廢する確實なる生産品の市場を加入者が得ること、(二)従來商人の得たる利潤を今度は生産者に留保し得ること、(三)總ての生産者が銀行の加入者とな

りし時には彼等が唯一の市場統制者たること、而して總ての労働の所産の價格を決定する地位を占むること、(四)銀行は全體の市場を盡すが故に需要と供給との均衡を圖り得ること、(五)交換の集中は經費を大に節約すること之である。遮莫彼の計畫に於ては銀行の創立後に於て自己の生産物を生産する爲に職工が職業團體を組織することを許容せられる。斯る團體は自己の生産物の價格を労働時間によつて決定し、又團體員の賃銀を決定し、製品の品質保證をなす爲に檢定所を創設するのである。又銀行は製品の交換の機關たるのみならず、教育の施設をなし、養老年金、不具廢疾年金等を團體員の爲に設置するのである。

斯の如くしてワイトリングは總ての財産の共有及び生産交換の集中管理に對する共產主義の初期の信念を棄て、交換のみを集中せんとするブルードンの無政府主義の計畫を之に代へたのである。而して此變化はアメリカの經濟事情によるよりも政治事情及び社會事情によるのである。換言すれば現在の政治制度を破壊せずして經濟改革を要求するアメリカの事情に應ずる爲に現在の秩序と革命との妥協である交換銀行を主張したのであつた。尙ワイトリングは一八五〇

年——一八五一年に亘つてアメリカに於けるドイツ労働運動の主要人物であつたが其所説に對しては素より賛否兩論があり、其專擅の行爲によつて間も無く他人の怨府となるに至つた。然し彼はドイツ労働運動の指導者たらざるに至つた後に於ても一八五四年まで「労働者共和國」の刊行を持續したのであつた。(Commons, History of Labour, pp. 510-516; Perlman, pp. 30-32)

フィラデルフィアに於てジョン・キャンベル(John Campbell)はニューヨークのグリーリーと同じく指導者たる地位を占めて居た。彼は出版者、著述家、新聞雑誌の寄稿家であり、數年間フィラデルフィア労働運動に關するニュー・ヨーク「トリビューン」の特定通信員であつた。彼は又卓越せる雄辯家で團體の組織者であつた。彼の思想は同時代の諸計畫の一種の綜合をなしたものであつた。一八四五年より一八五二年まで彼は恐らくフィラデルフィアに於て労働權を最も活動的に唱道したる者であり、一八五〇年及び其翌年に於て各種の改革の要求に労働者を覺醒せしめたるは主として彼の努力の賜であつた。彼が辯士の一人として顔を列しない重要な民衆大會は殆んど無かつた。然かも彼の急進思想は労働者の俚

耳に入り難く一八五一年の後半に於て早くも權威を失墜し始めたのであつた。此點で彼はワイトリングと經歷を同じくしてゐた。

以上述べたるワレン、ベック、ワイトリング、キャンベル及びフラスクスの學說及び實行に於て他の思想と混淆せられたる哲學的無政府主義はステイブンス、パール、アンドルース (Stephen Pearl Andrews) の學說に於ては國家又は政府の意義と相容れずして解放せらるることとなつた。彼は嘗て「ニューヨーク職工協會 (New York Mechanics Institute) に於て次の如き演説をなした。フリーエーの「運命は吸引力に釣合つて居る」と言つたのを、平易な言葉を以て翻譯すれば社會は改造せられ、各個人は社會の抑制によつて妨害せらるること無く、自己の運命又は人生の狀態及び職業を選択し且つ變化せしむる權能を賦與せらるべきである。換言すれば各人は自己に取りて他の總ての人爲法に卓越せる理法であり、自己に取りて神法の唯一の判事たり自己の個性及び組織體の要求の唯一の判事たるべきである」と。彼はジョサイア・ワレンの「衡平商業」の觀念を認容して根本原則を次の如く述べた。「單純なる衡平は、私が自己の利益の爲に貴下の労働を取り、之を使用すれ

ば、之に對して私は等量の私の労働を貴下に與ふべきである。故に若し私が労働の代りに貴下の労働の所産を取りたる時には、私の労働の所産を以て支拂ふべきである。乃ち私の貴下に與ふる貨物は私の受たる製品に含まれたると正確に等量の労働を含む物たるべきである。」「等量の労働は正確に等時間を意味するものではない。寧ろそれは均等の「困難」又は「嫌忌」の念を含むことである。而して之が測定方法は單純である。乃ち必要なることは特定種類の労働を以て最も容易に測定し又は決定し得る平均嫌忌の念とする協定を遂げ、之を一種の度木たる比較の基準として他種類の労働の相對的嫌忌の念を測定する爲に使用すればよいのである。然し乍ら嫌忌の念の一定量を代表するに足る交換の媒體が必要であることを彼も承認してゐる。製品の交換は物々交換の方法によつて常に即座に成立するものでないからである。彼は之が爲に労働紙幣を使用せんことを提案する。而して其發行は商店主によりて自己の労働のみならず店舗内の貨物并に當然自己の所有となるべき顧客の手形に相等するだけ爲されるであらう。斯の如くして共通の交換の媒體を作るのであるが、如何なる場合に於ても原價主義を脱

する交換を許容しないのである。

斯の如き交換制度は各個人をしてそれを獨立せしめ、拘束又は憲法——法律規則命令又は取締令の一も存在せざる社會を作り出だす。原價主義と同様に眞の社會の根柢たる個性及び個人の主權の原則を保障する爲に、個人は總ての制度以上位するのである。而して斯る制度の下に於ては競争は相反嚙せずして協同的となるであらう。同一の勞働を上手に、且つ低廉に爲し得る人を競争により自己の事業より輩出せしむることは勞働者自身の積極利益であるからである。協同生産は其節約といふ點のみより發達するであらう。然も之は全く任意であり何時にても脱退することが出来るのである。賃銀制度は各人がそれぞれ異りたる職能をなすべき使命を有するが故に存續するであらう。或者は指導をなし、或者は從屬する。或者が他人を使用するは正當であると共に其者に賃銀を支拂ふことも又當然である。然も恐らく賃銀勞働者は其傭主よりも多くの報酬を受くるであらう。後者の仕事に伴ふ嫌忌の念は前者のそれより遙かに輕微であるからである。アンドルースは其主張を熱心に弘布せしめんと努力したにも拘らず

傑出せる賛成者を得るに至らなかつた。然かも一八七〇年代に至る間のアメリカの無政府主義は彼によつて脈絡を維持したのであつた。

最後に擧ぐべき當時の急進論者はエドワード・ケロッグ(Edward Kellogg)であつた。彼は一八四三年「高利其弊害及び救濟手段」(Usury, the Evil and the Remedy)と題する論文を公にした。之は一八四九年増補の上「勞働及び其他の資本」(Labour and other Capital; the Right of Each Secured and the Wrongs of Both Eradicated)の題名を以て單行本として世に現れた。彼は利率の低下を行はんとしたが、其特異なる點は相互銀行によらずして政府銀行によらんとしたことであつた。(Commons, History of Labour, pp. 516-519)

第三の部類に屬する改革者は萬人に對し家庭を興へんとする土地改革者の要求を利用して、立法によるに非ずして寧ろ協同組合を以て高價なる賃借料を救濟せんとした。一八五年頃模範寄宿所の思想がイギリスに發達せんとし、アメリカに於て慈善家が之を試験的に實行したことがあつた。然し乍ら縱令少數の成功するものがありとしても此事業のみでは效果頗る鮮少であつて、他の根本解決策

が必要であつた。而して斯る解決策には次の三種類があつた。第一は共同生活制度の採用で、アッシュリーソン主義者が主張した。此主義によつて一八四九年「フィラデルフィア統一建築組合」(The Philadelphia Unitary Building Association)が設立せられた。之は合資會社の主義によつて資金を蒐集するものであつた。第二は相互建築貸付組合で、アメリカに始めて移入せられたのは一八四〇年であつたが、一八四九年に至る迄多くの賛成者が無かつた。然し其後數年を出でずして大西洋沿海諸州に普及するに至つた。第三は支拂容易なる方法で、労働者に土地を賣却し、家屋の建築は其者に放任するのである。當初斯の如き組合には多くの州に於て何等立法上の干渉を加へなかつたが、濫用せられたので後には嚴重なる干渉を加へた。(Commons, History of Labour, pp. 519-521)

#### 四 新土地均分主義

一八二九年ニューヨークの労働政黨は土地及び資本を包括する總ての財産の平等分配に賛成することを宣言した。此學説が土地均分主義(Agrarianism)と稱せらるるものである。一八三七年ジョージ・ヘンリー・エバンズは(George Henry

Evans)「ワーカーキング・マンズ・アドボケート」(Working Man's Advocate)の主筆を辭してニューヨーク州の農園に隱退し、土地均分主義の原則の更新に着手した。而して一八四〇年「ニューヨークに於ける労働者政黨の起原並に發達史」(History of the Origin and Progress of the Working Men's Party in New York)を公刊して時代の誤解を戒める處があつた。然るは一八四四年の労働組合運動の復活は彼をして再び此方面に身を投ぜしめ、此處に新土地均分主義をストライキに代へるのみならず萬能のものとして推奨することとなつた。之はフリエー主義たるアソシエーションの學説及びオートエン主義と相容れぬものであつた。是等の學説はヨットロップバの社會主義より起り、土地均分主義はトマス・ペイン(Thomas Paine)及びトマス・ジェファースン(Thomas Jefferson)の個人主義的民主主義より直接生れたものである。其推論の方式は次の如くであつた。乃ち、人類の生存權は總ての他の權利の本源である。生存せるが故に人は權利を有するのである。之は生存に不可缺の自然物を使用する權利を含むものである。之は人類の自然物權であるが他に自由、労働資本、教育等の如き總ての權利が獲得せられ、引出される。然し乍ら人類は資本

に對して平等の權利を有しない。それは労働の所産にして自然の賚賜でないからである。從來の土地均分主義は此間の區別を設けないうで、資本と土地は何れも平等に分配せられるべきものとした。然し乍ら令や土地のみが分配せられるべきものとなつた。

自然權には労働又は労働の所産によつて得らるる權利の有しない三つの基本點がある。平等、禁讓渡、個別性である。各人はそれ／＼單位で従つて萬人に所屬する土地の均等分配に與る權利がある。第二の禁讓渡は一定の期間均分せられたる土地の權利を確保するに役立つ。第三の個別性は分立性である。自然は個人——家族、共同社會、國家に非ず——を單位と認容する。故に自然權は各個人に保障せらるべきである。斯る主張は此學說を無政府主義に誘導することになるであらう。然しエバンスは其個人主義を制限し、二十一歳以下の子女に對しては個性を許容しないのである。而して又實際に於ては個人に非ずして家族が單位となるであらう。然し乍らエバンスの第一の高弟たるリウイス・マスケウリヤ (Lewis Masquerier) は其師より更に一步を進めて純然たる無政府主義の主張を

なしたのである。

自然權の是等三種の内部性質を保障せられたる個人主義は、一の新しき且つ確乎たる地位を占めて居る。それは自由の土位にあり之に先行する。蓋し個人に其自然權を賣却する權利を否定することは眞の自由の否定では無いからである。各人は常に自然に生活を求めることが出来るから、各人は全然壓迫を受けざる事となる。斯くて私有財産制度は自由及び自家雇傭と同意語となる。自然法は私有財産の中に其本體を見出す。それは自身の宇宙の持分に個人を主權者として樹立せしめる。それは如何なる事情を以てしても占有解除を許容しない。それは他人の強制労働を以て利益する事を得せしめない。それは其所有する資源に放置し、自身の努力に其運命を放任する。それは自然の自給法則を課すること、を以て自然の權利を保障する。それは個人が他人に及ぼす權利を取去り、又個人に及ぼす他人の權利を否定して、個人を尊重せしめる。斯の如くして土地に對する權利は資本に對する權利と異なる。人は資本を生産により、贈與により、又は交換によつて取得することが出来る。故に平等、禁讓渡、個別性による試験を資本に適

用することが出来ない。然し生産する者は他人の自然権を侵害することが許されず、交換若くは贈與は全然任意でなくてはならぬ。此點で共同團に於て資本階級の存立を許容するアソシエーション主義者と議論を闘はせることになつた。アソシエーション主義者と共產主義者とは労働の権利に就ても議論を闘はした。ブリスベーンは之を基本権利であると言ふ。蓋し人類が労働によつて生存する爲に創造せられたものであるならば、若し其権利が保障せられないならば、生存権も認容せられないであらう。此権利に土地の権利其他が依倚するのである。然るにエバンスは土地の権利が確保せられなければ、人は労働の権利を持たないであらうと言ふ。然もフリーモイ主義者は利害の調和と愉快なる労働が生産を非常に増加せしめ、労働者は資本に與ふる分配慾を失ふことがあるまいと言ふ。之に對してエバンスは生産に對する最大の刺戟は私有財産であると言ふ。人格自由の権利に就ても同様である。ウィリアム・ロイド・ガリソン(William Lloyd Garrison)はエバンスが土地の解放を叫べる時に、人格自由を第一に要求した。北部の労働者は南部の黒人奴隷に同情を有せず、ガリソンの要求に耳を藉さなかつた。エバ

ンスは眞の奴隷とは都市の賃銀奴隷である。彼等は業主が土地に對する自然権を剝奪せるに原因する、土地の権利が奴隷制度廢止に先行すべきであると言ふ。土地に對する自然権の學説はオーエン及びブリスベーンの計畫より急進ではないが革命的であつた。それは直接労働者に訴へ階級闘争に賛成を求めたのであつた。エバンスは之を歓迎した。自由取引、自由労働、奴隷廢止が終局の目的であるが、自由土地、又は土地に對する平等の権利が第一に樹立せられねばならぬ。然し之は舊來の諸州に於ては實行困難であらう。先づ屬領地に之を試み、然る後舊來の諸州に及ぶべきであらう。而してそれには公有地の自由、住宅地の除外、土地の制限の三つの屈伸方法を使用すればよす。(Commons, History of Labour, pp. 322-327; Periman, pp. 38-40; Carlton, Organized Labour, pp. 86-97; Carlton, History, p. 49)

一八四四年エバンスはニューヨークに於て「ウワリーキング・マン・ス・アドボケート」の再刊に着手し、又知己同僚と共同事業を開始した。其一人であつたジョン・ウィンド(John Wind)は極端なる反獨占主義者として卓越した人物であり、後「全國改革協會」(National Reform Association)の書記として又會計係をして活動し、又労働者の集

會に於ける辯士として傑出し、屢々各種の産業會議に代表として派遣せられた。エバンスは前述の「アドボケート」の外に「民権」(People's Rights)と稱する新聞をも經營したが、其後マイク・ウォルシュ(Mike Walsh)と稱するアイルランド生の男と共同した。ウォルシュは一時に社會上并に政治上の問題となつた謎の人物の一人で、一八五五年國會を隠退した後四年間ヨーロッパ及びメキシコを巡歴したが、一八五九年三月十七日ニューヨークの居酒屋の庭で死んだ時には無一文となつて居た。却説一八四〇年彼は「正直勤勉にして自己の手の労働によつて生活を支持する青年のみより成る」と呼號する「スパルタ團」(Spartan-Band)を組織してゐた。而して一八四四年此「スパルタ團」と「全國改革協會」(National Reform Association)とが共同してウォルシュとエバンスとをポストンに開催せられたる「労働者大會」(Working Men's Convention)に代表として派遣し、其要求の中に土地改革を加へしめんとした。此大會に於けるウォルシュの演説に對してポストンの「インベスティゲーター」(Investigator)紙はあらゆる讚辭を盡して推奨し、エバンスも亦ウォルシュの非難すべき處の無いのに感服し、人は何れも美點を有するものであるが彼はその總てを具

有して居ると述べてゐる。彼等が共同事業の關係を断ちたる後に至つても、エバンスはウォルシュに好意を有し、彼が筆禍によつて入獄せる際にも辯護する態度を捨てなかつた。然しエバンスが公有地の重要性に就て労働者の注意を惹かんとする努力は、断へずウォルシュの政治運動によつて妨害せられ、屢々其功績は打壞されたのであつた。

それにも拘らずエバンスは眞に全國的運動が出来るまで其困難なる努力を續けた。而して一八四四年ニューヨークに歸還せる時彼は政治運動の計畫を樹て、ウインド(Windt)デーバー(Deyr)マスケラー(Masquerier)マクスウェル(Maxwell)等の援助を得て綱領を作成した。「土地均分團」(Agrarian League)の誓言と稱するのが之である。曰く「我等連名の者は人が其土地に對する自然權を恢復することを希望し、如何なる人又は如何なる立法部の地位に對しても其者が當選したる曉に於ては州又は合衆國の公有地に於ける現在以上の交通を許さざること及び實際住居者の自由にして排他的使用の爲め農耕及び住宅地に通路を置かざることとを文書を以て誓約せざる者に投票せざることとを堅く誓約する」と。此誓言は團名が「全

國改革協會(National Reform Association)と改稱せられたる後も持續せられ、四年後に次の文言を添加したに過ぎ無かつた。「又州知事又は立法部員たらんとする者に於て公有地の自由、今後本州に於て各個人の所有する土地の面積を制限すること、債務又は抵當から住宅地を除外すること、官公業又は法律の特許せる工場に於ける労働時間を十時間に制限することを誓約せざる者に投票せざることを堅く誓約する」と。此新團體は一八二九年より一八三六年迄の労働組合運動と政治運動に關係を有したことが明白である。而して其中心人物はジェームズ・バイン(James Pyne) ジョン・コンマーフォード(John Commerford) ジョージ・フェラル(John Feral)等の労働組合の指導者があり、トマス・エインズレー(Thomas A. Devyr) アルバン・イー・ボトマイ(Alvan E. Dovey)等があつた。

一八四五年アメリカ合衆國に於ける新聞は總數二千と推算せられるが、一八五〇年に於て六百の新聞が土地改革に賛意を表してゐた。労働新聞は一八三七年の恐慌によつて打撃を蒙り七年間雌伏し、一八四三年ニューヨーク州マンチェスターに「オペレーティブ」(Operative)が起つたのを魁として各地に續々勃興した。而して其多くは十時間労働を唱道する爲であつたが、後に土地改革問題をも其中に加へることとなつた、然し一般の新聞殊に東部に於ける新聞は、初め無關心であつたが後に之に反感を懷いた。或物は「社會制度の根本を擊破する學説を打倒せよ」と叫び、又或物は土地均分主義は「愛すべきフリーエー主義の憎むべき兄弟である」として排斥した。

土地均分運動の中心人物としてヘルマン・クリーゲ(Herman Kriege)を忘れることが出来ない。彼はヨーロッパに於ては「正義人同盟」(Bund der Gerechten)の加盟員であつたが、アメリカに亡命したる後一八四五年此處のドイツ人が團結せんとしてゐることを見出した。アメリカには彼に先立つて多數のドイツの共產主義者が亡命して居り、フィラデルフィアに於ては既に「養嗣市民」(Adoptiv-Bürger)と稱する新聞が刊行せられ、セントルイスに於ては「反僧侶」(Anti-Pfaff)及び「進め」(Vorwärts)がコッホ(Koch)によつて刊行せられてゐた。それと同時に他方に於ては土地改革問題が喧しく論議せられてゐたのであつた。而して一八四五年十月二十日ドイツの土地改革者は富裕なるドイツ人が移民援助の爲に組織せる「ニュー・ヨーク・ド

ドイツ人協會(German Society of New York)に改革團の發起を促したが、應答に接する  
ことが出来なかつた。其處で労働者自ら集會して土地問題を討議し、第二回目に「社  
會改革協會」(Social Reform Association)が成立した。之は前述したる「全國改革協會」  
(National Reform Association)が英語を用ふるアメリカ人になす處をドイツ労働者に  
爲すのである。何れも土地改革を唱道するのであるが、前者はエバンスの指導の  
下に於て土地改革を終局の目的とするに反し、後者はクリーゲの下に於て土地改  
革を必要なる階段と見てゐるのであつた。クリーゲは「外國人に反抗する結果たる此改革計畫  
を唱道するに就ては慎重な態度を持たしたが、マルクスの反對を受けて彼から「正義  
人同盟」の除名を受けたるをも物ともせず之を認容したのであつた。クリーゲは  
マルクスに答へて彼は依然として共產主義者であり、土地改革によつて獨占を覆  
滅せしむるも個人主義を樹立せざることを希望すると言つてゐる。而して一八  
四五年ヒュー・ヨーク市に於ける選舉に彼も活動を試みたが失敗したのであつた。  
尙ほ其他のドイツ人の土地改革者の團體がミルウォーキー、シンシナティ、ポスト

ン、ニュー・ヨーク、フィラデルフィア、シカゴ、セント・ルイスに存在した。(完)(Commons,  
History of Labour, pp. 527-535; Carlton, Organized Labour pp. 92-96)

附記 本篇に論述せる事項の多くに就て小泉信三教授の「近世社會思想史大要」が有  
益なる参考文献であり、ソイトリングに就ては平井新氏の本誌に寄せられたる  
研究論文がある。尙ほ昨年ヒュー・ヨークより刊行せられたるアントニー・ピン  
バの「アメリカ労働階級史」はアメリカの労働運動を如何に觀察すべきかに就て  
教へるまゝところが尠くない。又アメリカの共產團體に就てはチャールズ・ノルド  
ホーフの「合衆國の共產團」(一八七五年)ミジョン・ハンフレイ・ノイスの「アメリカ  
社會主義史」(一八七〇年)がある。何れも篤學者の参照を俟つ次第である。更  
にロバート・オーエンに就ては昨秋來「三田評論」に拙稿を發表してゐるが未だ完  
結するに至らなす。

(昭和三年八月二十六日稿)